



宮崎の放牧

(取組内容や課題等を紹介)



令和8年2月 宮崎県拠点

農林水産省
九州農政局

はじめに

宮崎県では、黒毛和牛の繁殖経営と相性の良い放牧が広がり、西臼杵型放牧ネットワーク会(会員22名)や南那珂地域放牧研究会(研究会員18名)など、地域に根ざした二つのグループが、視察研修や情報交換を通じて活発に活動しています。

県内の放牧は、黒毛和牛の繁殖経営が中心であり、購入飼料費の削減、飼養管理の省力化、牛の健康増進といった畜産経営上の効果が期待されます。さらに、放牧は耕作放棄地の解消、獣害の軽減、農村景観の保全、地域の活性化など、農業・環境・地域社会にわたる多面的なメリットをもたらします。また、近年では、アニマルウェルフェアの観点からも、牛にとって自然な行動を可能にする放牧の価値が注目されています。

本事例集は、こうした放牧の取り組みや情報を整理し、放牧に挑戦する方々の参考資料として活用いただくことを目的としています。放牧の魅力と可能性を共有し、持続可能な畜産と地域づくりに向けた一助となれば幸いです。

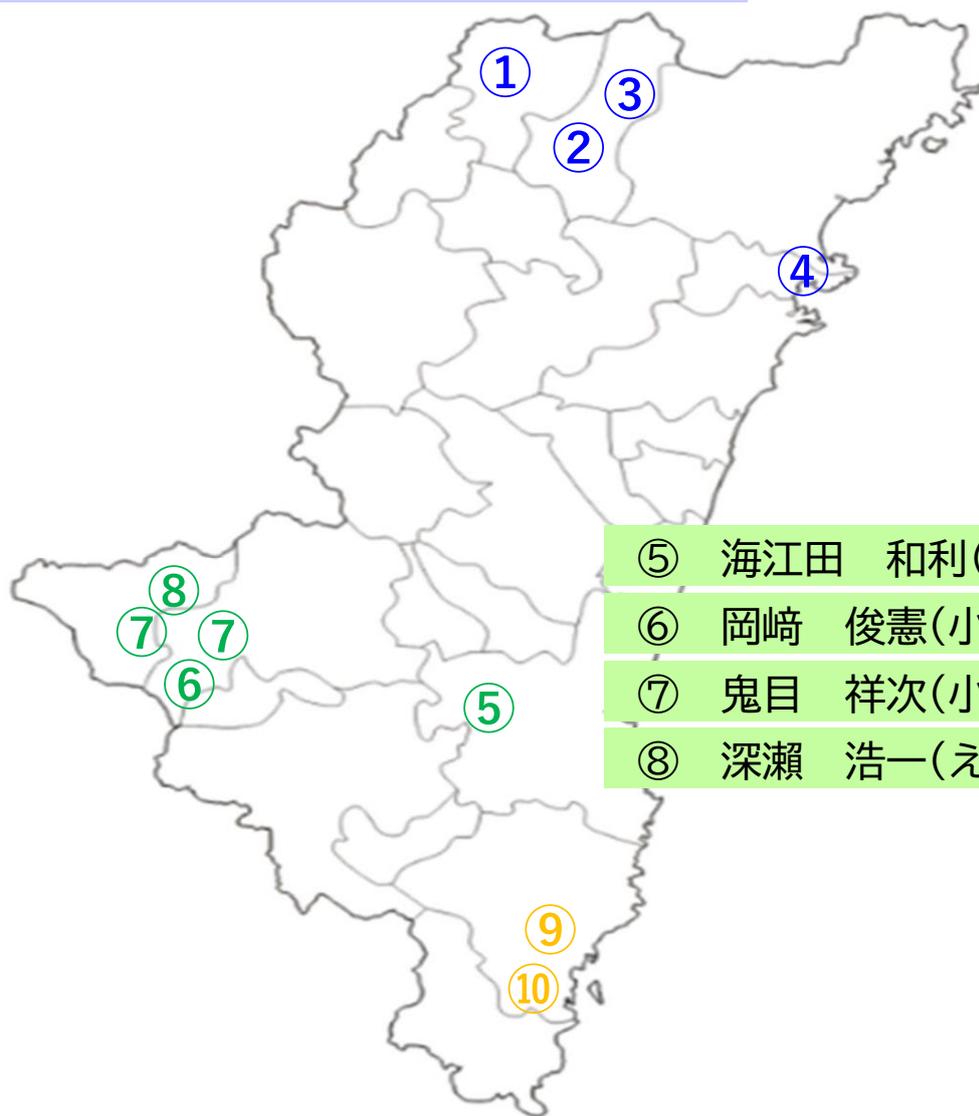
県内放牧地マップ

① 佐藤 祥三(高千穂町三田井) P1

② 岩田 篤徳(日之影町岩井川) P2

③ 三浦 博文(日之影町七折) P3

④ 永田 牧也(門川町庵川) P4



⑤ 海江田 和利(宮崎市高岡町) P5

⑥ 岡崎 俊憲(小林市細野) P6

⑦ 鬼目 祥次(小林市・えびの市)P7

⑧ 深瀬 浩一(えびの市大河平) P8

⑨ 三賢 訓士(日南市板敷) P9

⑩ 加藤 伝(日南市南郷町) P10

(注)

放牧地は「衛生管理区域」に指定されており、関係者以外の立ち入りが禁止されています。立ち入りが必要な場合は、事前に牧場管理者の許可を得て、防疫措置を必ず実施してください。

和牛親子周年放牧(尾久保牧場)

-和牛放牧で世界農業遺産高千穂郷を守る-



西臼杵放牧ネットワーク会副会長
音楽グループ「ちほのわ」のメンバー

特徴的な取組

- ・荒れた茅場を活用し、親子周年放牧
- ・観光路線沿いの放牧場は、近隣棚田と共に観光客等に癒しを与える
- ・放牧場を会場とした音楽祭を開催

放牧を始めたきっかけ

- ・楽しんで牛飼いがしたい
- ・先駆者の取組に刺激を受けた

メリット

- ・牛は自由でストレスがなく、健康で種付きも良く、安産
- ・給餌や糞出しなどの作業負担軽減
- ・餌や敷料代の削減

デメリット

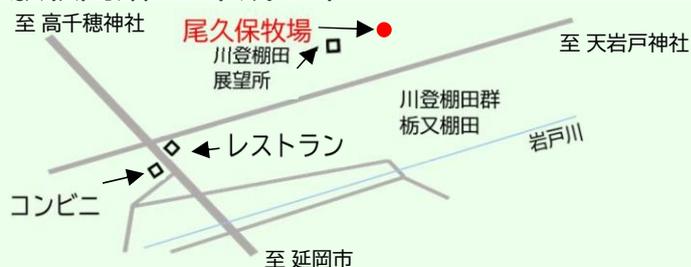
- ・子牛の健康面の心配が尽きない

苦勞したこと、していること

- ・放牧場の伐採及び片付け

生産者情報

所在地 : 西臼杵郡高千穂町三田井
代表者名 : 佐藤 祥三(さとう しょうぞう)さん
年齢 : 69歳
経営形態 : 肉用牛繁殖
飼養頭数 : 母牛13頭、子牛9頭
放牧面積 : 3.0ha(2区画)
標高 : 約358m
施設 : 簡易牛舎1棟(放牧地内)
草種 : バヒアグラス
センチピードグラス等
労働力 : 2名(夫婦)
放牧開始 : 平成19年~



母牛と子牛 が草を食む



課題と今後の展望

- ・事業継承者を見つける
- ・放牧子牛の評価を高める
- ・中山間地域を盛り上げる

佐藤さんの声

「放牧の魅力伝え、仲間を増やしたい」

「中山間地域の魅力をつたえたい」

佐藤さんのInstagram



自然や放牧と
音楽が調和

遊休農地を造成した山岳周年放牧(岩田牧場)

-繁殖経営と放牧はベストマッチ-



獣医師

全国放牧畜産ネット
ワーク協議会理事
西臼杵型放牧ネット
ワーク会会長

生産者情報

所在地 : 西臼杵郡日之影町岩井川
代表者名 : 岩田 篤徳(いわた とくのり) さん
年齢 : 74歳
経営形態 : 肉用牛繁殖
飼養頭数 : 母牛21頭 子牛14頭
放牧面積 : 9.9ha(1区画)
標高 : 230mの急斜面
施設 : 牛舎2棟(牛舎周囲が放牧地)
草種 : (4月~12月)バヒアグラス、センチピードグラス (1月~3月)イタリアンライグラス、河川敷の野草
労働力 : 2名(夫婦)
放牧開始 : 平成17年~

特徴的な取組

- ・毎日、牛自ら自由に放牧地の好きな所に移動(朝放牧、夜間は舎飼い)
- ・分娩の事故防止のためICT(情報通信)技術を取り入れている

放牧を始めたきっかけ

- ・牛舎で繋ぎ飼いされている牛の姿に違和感を覚え、牛が本来の行動をとれる環境を整えたいと思ったこと

メリット

- ・放牧により、経営コストが約半分になった
- ・手間が以前に比べ6割軽減した
- ・芝型牧草の放牧地は、大雨に対しても強く国土保全にも役立っている

デメリット

- ・肢蹄を痛めるリスク

苦勞したこと、していること

- ・遊休農地を15年かけ造成し、放牧地として自ら切り開いたこと



牛たちがのんびりと移動

課題と今後の展望

- ・引き継ぐ人が見つからないこと
- ・放牧は、アニマルウェルフェアの観点からも推進したい

岩田さんの声

「放牧は、牛によし、(一社)日本草地畜産種子協会HP
人によし、環境によし」

Google AIを用いて「岩田篤徳 宮崎」で検索すると、詳細情報をご覧いただけます



畜舎から 放牧地に到着

山林や田んぼ跡地を利用した放牧(三浦牧場)

-豊かな自然と清らかな水に恵まれた集落-



西臼杵放牧ネット
ワーク会副会長

鹿川地区活性化協議会
会長

生産者情報

所在地 : 西臼杵郡日之影町七折
代表者名 : 三浦 博文(みうら ひろふみ)さん
年齢 : 64歳
経営形態 : 肉用牛繁殖
飼養頭数 : 母牛39頭、子牛26頭
放牧面積 : 7.0ha(6区画)
標高 : 約550mの急斜面
施設 : 牛舎3棟
(放牧地まで500mから1km)
草種 : バヒアグラス、野草
労働力 : 2名(夫婦)
放牧開始 : 平成17年~

特徴的な取組

- ・5月から12月の間、妊娠牛のみ放牧
- ・分娩後や授乳期は放牧せず、管理や種付けのために牛舎に戻す
- ・水場がない場所には水を運び、沢沿いの場所では沢の水を利用

放牧を始めたきっかけ

- ・牛を放牧地に預けたら、思ったより安く済んだ経験から

メリット

- ・エサ代などコストがかからない

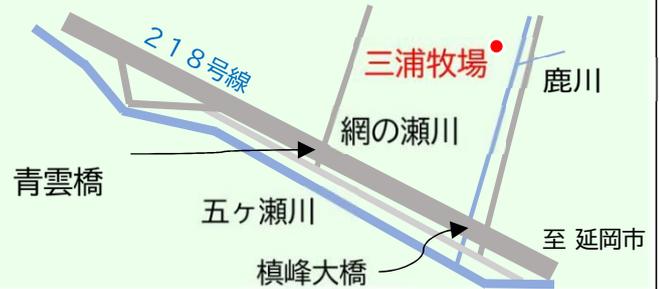
デメリット

- ・雑草対策が思ったより手間がかかる

苦勞したこと、していること

- ・雑草対策

至高千穂町



田んぼ跡地の放牧地



山の頂からの
豊かな水



放牧地内に沢

課題と今後の展望

- ・放牧地の拡大と整備
- ・放牧技術や飼養管理の知識の継承

三浦さんの声

「放牧は、山林や農地の荒地を減らし、この地域を整った景観にする」

茅地で妊娠牛の放牧を実践(永田牧場)

-牧養力を安定化するため牧地造成を計画中-



緑の牧草地を目指す
永田さん

生産者情報

所在地 : 東臼杵郡門川町庵川
代表者名 : 永田 牧也 (ながた まきや) さん
年齢 : 41歳
経営形態 : 肉用牛繁殖
飼養頭数 : 母牛19頭 子牛12頭
放牧面積 : 4.0ha(2区画)
標高 : 100m
施設 : 牛舎3棟
草種 : 茅(ススキ、チガヤ等)
労働力 : 1名
放牧開始 : 平成28年~

特徴的な取組

- ・妊娠牛の放牧(種付け、分娩は牛舎)
- ・監視性の良い立地条件の放牧地

放牧を始めたきっかけ

- ・祖父から受け継いだ茅刈りによる飼料供給方式からの転換

メリット

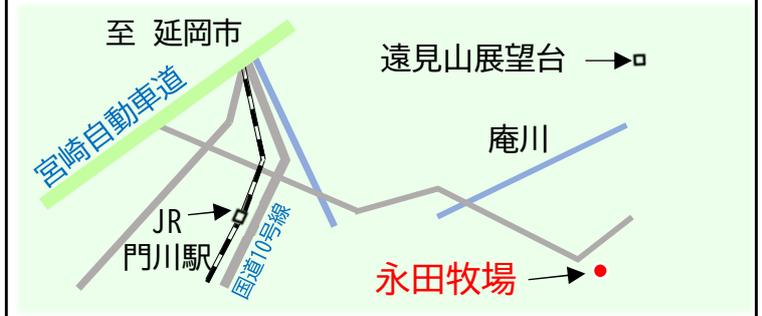
- ・牛が落ち着き、毛なみが良くなった
- ・ストレスが減った
- ・足腰が強くなった
- ・購入粗飼料が減った

デメリット

- ・台風等の潮風で電気柵が傷みやすい

苦労したこと、していること

- ・電気柵の設置や管理に手間がかかる



牛舎からの放牧地

課題と今後の展望

- ・畜産全般について情報の探索
- ・茅地をバヒアグラスの牧草地に転換し、放牧地内を通る町道からの眺望を整備する

永田さんの声

「緑の牧草地に草を食む牛たちの放牧場を作ります！」



適度な運動で分娩がスムーズに

耕作放棄園(元みかん園)を利用した周年放牧(海江田牧場) -耕作放棄地から始まる、持続可能な畜産の挑戦-



生産者情報

所在地 : 宮崎市高岡町
 代表者名 : 海江田 和利(かいてだ かずとし)さん
 めぐみさん
 年齢 : 62歳
 経営形態 : 肉用牛繁殖
 飼養頭数 : 母牛53頭 子牛40頭
 放牧面積 : 約15.0ha(5区画)
 標高 : 180m
 施設 : 牛舎6棟
 草種 : バヒアグラス、イタリアンライグラス
 労働力 : 2名(夫婦)
 放牧開始 : 平成25年～

特徴的な取組

- 湧き水が豊富な耕作放棄地を活用した周年放牧

放牧を始めたきっかけ

- 地域の耕作放棄地(元みかん園)の荒廃を防ぐため

メリット

- 飼料代の削減
- 牛の健康状態向上(毛艶・足腰・分娩)
- 作業負担軽減(給餌・糞尿処理・削蹄)
- 鳥獣害対策に効果的な緩衝帯として機能

苦労したこと、していること

- 荒れ果てた土地を、牛が歩ける放牧地へと整えるまでには、想像以上の時間と労力がかかった



放牧地の片隅に



エコ資材と蔦が編む、牛の休憩所

課題と今後の展望

- 放牧の取組は、耕作放棄地の再生利用に寄与するとともに、鳥獣害対策としての緩衝帯の機能も果たしつつある

海江田さんの声

「草地の定着と管理を徹底し、持続可能な放牧を通じて畜産の発展に貢献していきたい」



酪農の転換放牧(有限会社霧島牧場)

-粗飼料自給による昼夜放牧-



県内では数少ない放牧酪農家
岡崎さん

生産者情報

所在地 : 小林市細野
代表者名 : 岡崎 俊憲(おかざき としのり)さん
経営形態 : 酪農
飼養頭数 : 母牛60頭、子牛20頭
放牧面積 : 65.0ha(約20区画)
標高 : 約550m
施設 : 牛舎3棟
草種 : イタリアンライグラス、シロクローバ、その他野草
労働力 : 3名(夫婦、息子)
放牧開始 : 昭和46年~

特徴的な取組

- ・放牧による酪農経営
- ・放牧地は、専用地と採草兼用地
- ・牧区を複数に区画化し、牛を一定期間ごとに移動(転牧)させる輪換放牧

放牧を始めたきっかけ

- ・父からの継承

メリット

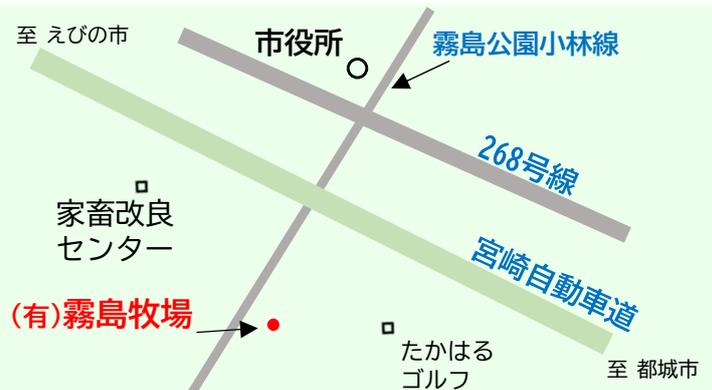
- ・搾乳作業の省力化(朝夕、牛自ら搾乳に)
- ・除糞作業の省力化
- ・削蹄、敷料の削減(敷料はいらない)

デメリット

- ・広大な放牧地での牛の所在確認
- ・市街地や学校から遠方

苦勞したこと、していること

- ・放牧地に掛かる固定資産税が高い
- ・冬季の寒さ対策(霧島おろし)
- ・夏場の熱中症対策



木陰はみんなの避暑地

課題と今後の展望

- ・ダニ媒介のピロプラズマ(発熱)の対応
- ・ホルスタイン種(メス)とジャージー種(オス)から暑さに強い牛を生産し、経営安定を図る

岡崎さんの声

「放牧でも飼養管理を怠らない!!」
「放牧は、安易にはできない」



搾乳施設

養鶏経営者の繁殖牛放牧（有限会社鬼目養鶏場）

-鶏ふん堆肥を有効活用した牧草地-

放牧地の管理を
一手に担う
取締役の山之口さん



鬼目社長

牧草のことは
俺に任せろ！

生産者情報

所在地：小林市・えびの市
代表者名：鬼目 祥次(おにめ しょうじ)さん
年齢：76歳
経営形態：肉用牛繁殖
飼養頭数：母牛60頭、子牛30頭
放牧面積：約17.0ha
(小林市とえびの市に4区画)
草種：ネピアグラス（採草用）
バヒアグラス
イタリアンライグラス
放牧開始：令和2年から子牛繁殖事業に参入

特徴的な取組

- ・自社の鶏ふんを活用した堆肥ペレットで育った牧草を与えるなど、循環型の生産体制を実践

放牧を始めたきっかけ

- ・自社の鶏ふんを堆肥化し採草地に活用することで、牧草の生育環境を整え、放牧に適した草地づくりが可能であると考えたから

メリット

- ・鶏ふん堆肥ペレットを活用し、牧草を自給
- ・ペレット化により、堆肥散布の作業効率が格段に向上
- ・繁殖成績を示す指標が、バランス良く向上

苦労したこと、していること

- ・牛に関する知識がまったくない状態からのスタートであったこと



ロータリー式堆肥攪拌機

鶏ふん堆肥ペレット

青空のもと、牛が穏やかに



草を食む牧場のひととき

課題と今後の展望

- ・自社の鶏ふんが原料である有機堆肥を活用し、自給飼料となる牧草の栽培、WCSや野菜の栽培に取り組むことで、資源循環型農業の構築を目指す

鬼目さんの声

「牛は専門外で、何が正しいのか分からず
試行錯誤を続けているが、それも楽しい」

中山間地域での繁殖牛放牧(深瀬牧場)

-杉山を整備して親子周年放牧-



牛の管理を一手に担う
深瀬さん

生産者情報

所在地 : えびの市大河平
代表者名 : 深瀬 浩一(ふかせ こういち)さん
年齢 : 67歳
経営形態 : 肉用牛繁殖
飼養頭数 : 母牛23頭、子牛20頭
放牧面積 : 約0.5ha(1区画)
標高 : 約389m
施設 : 牛舎1棟
草種 : 雑草(野草)
労働力 : 1名
放牧開始 : 平成7年~



お目目パッチリ

特徴的な取組

- ・ 自宅周辺の杉山を伐採して放牧
- ・ 親子周年放牧(種付けと分娩は、牛舎)
- ・ 粗飼料として、イタリアンライグラスを生産して給餌

放牧を始めたきっかけ

- ・ 約20年前に杉材が安価であったため
- ・ えびの市役所畜産担当者からの勧め

メリット

- ・ 削蹄は年1回のため、経費削減
- ・ 除糞作業が不要のため、労働時間削減
- ・ 牛舎飼育と比べ牛が健康で綺麗

デメリット

- ・ 特にないが、牛が寒くないか隣人が心配をする^^

苦勞したこと、していること

- ・ 捕まえにくい牛がいる



傾斜地でもOK



粗飼料は電柵越しに給餌
(電気柵ワイヤーは上部に1本設置)

課題と今後の展望

- ・ 草量が少ないので、山林を伐採し放牧地を拡大

深瀬さんの声

「放牧のおかげで採算は取れている」
「健康な子牛が生まれる」

草地を守る管理放牧(三賢牧場)

- 20日間隔で牧区をローテーション -



削蹄師でもある
三賢さん

特徴的な取組

- ・放牧期間は、3月中旬～12月頃まで9ヶ月間の昼夜放牧
- ・経産牛は、放牧地での自然分娩
- ・冬期の舎飼い期間中は、購入飼料を給与
- ・放牧地の沢は、年間を通して枯れたことがない

放牧を始めたきっかけ

- ・削蹄業との兼業で、自給飼料を作ることが困難となった
- ・実践農家の放牧をみて関心があった

メリット

- ・労力の軽減、低コスト

デメリット

- ・発情の兆候確認に、手間がかかる

苦労したこと、していること

- ・外部導入牛のうち放牧になじめない個体の管理(電気牧柵を怖がる等)
- ・電気牧柵の漏電(下草刈り等の管理)

放牧地内に畜舎



放牧地に沢



生産者情報

所在地 : 日南市板敷
代表者名 : 三賢 訓士 (みかた のりお) さん
年齢 : 43歳
経営形態 : 肉用牛繁殖
飼養頭数 : 母牛14頭 子牛10頭
放牧面積 : 6.7ha (3区画)
標高 : 130m
施設 : 牛舎1棟
草種 : バヒアグラス(ナンオウ、ペンサコラ)
労働力 : 2名(夫婦)
放牧開始 : 平成28年～



親子放牧

課題と今後の展望

- ・土壌改良を行い、牧草の質を上げることで栄養価を高める

三賢さんの声

「自家で餌を確保し、完全自給を目指したい」

元みかん園を活用した放牧(加藤牧場)

-傾斜地を少なからして簡単放牧-



南那珂地域放牧研究会会長

特徴的な取組

- ・南斜面のみかん園跡地を利用した親子放牧

放牧を始めたきっかけ

- ・父子での労働力に限界を感じて放牧開始
- ・先駆者の放牧を視察

メリット

- ・日当たりの良い南斜面で牧草が育つ
- ・傾斜地を運動するので削蹄不要
- ・飼料代の削減
- ・除糞作業が不要
- ・獣医師を呼ぶ回数が減少

デメリット

- ・バヒアグラスの種子が高額

苦労したこと、していること

- ・牛を放牧に慣れさせること



ルーキーです!!



雨上がりに牧草を食む親子

生産者情報

所在地 : 日南市南郷町
代表者名 : 加藤 伝(かとう つとむ)さん
年齢 : 43歳
経営形態 : 肉用牛繁殖
飼養頭数 : 母牛17頭 子牛8頭
放牧面積 : 約3.5ha (2区画)
標高 : 約55m
施設 : 牛舎2棟
草種 : バヒアグラス、センチピードグラス
労働力 : 2名(父、本人)
放牧開始 : 令和元年~



子牛のシルエット

課題と今後の展望

- ・ICTを活用し、放牧の生産性向上を目指したい
- ・耕作放棄地を活用して放牧面積を拡大
- ・牛に雑草を食べさせ、集落道を維持

加藤さんの声

「放牧仲間を増やしたい」
「牛舎なしで放牧を開始すると初期投資が抑えられる」

発行：九州農政局宮崎県拠点
編集：地方参事官室

〒880-0801 宮崎市老松2丁目3番17号

TEL:0985-24-2365(代表)

<https://www.maff.go.jp/kyusyu/miyazaki/index.html>

